



HAKUSAN
SHINKIN

2021 Report



はくさん信用金庫

2020年度／経営情報誌

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

さて、令和2年度に始まった新型コロナは収束には至っておらず、未だ現在進行形の危機であり、令和3年度は引き続き新型コロナとの共生を迫られるウイズ・コロナの時代が続くと考えられます。当面は感染拡大に伴う経済活動抑制と、感染一服に伴う経済活動の後押しというブレーキとアクセルを交互に踏まざるを得ない環境が継続することが予想されます。

当金庫としましては、令和3年度は経営統合による相乗効果を最大限発揮し、持続可能な収益基盤・経営基盤の確立を目指すために、お客さまの幸せづくりと地域全体の成長に貢献する『はくさん信用金庫』の目指すべき姿の実現に向けて、取引先の資金繰りを支え、事業継続を徹底的に支援し、地域経済の回復に努めること、また金融という枠組みを超えて地域社会の活性化においてSDGsの視点を取り込みながら、地域とともに持続的な成長を実現し、地域とともに歩む『はくさん信用金庫』の確固たる経営基盤の確立を目指します。

コロナ禍の影響下においても、私たちの役割は、将来にわたり発展を続ける地域社会づくりに貢献することには変わりはなく、役職員一人ひとりが情熱を傾け、考え、行動し、確かな信用と実績を積み上げていくことが大切であり、「コロナ禍の影響拡大の中での『金融円滑化』に向けた積極的対応」を最重要課題とし、役職員一丸となって取り組んでまいり所存でございますので、今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



はくさん信用金庫
理事長

石田雅裕

経営理念

豊かな自然と文化に囲まれたこの地において、コミュニティバンクとして地域にしっかりと寄り添い、「地域経済の発展」、「社会の繁栄」、「健全な経営」、「明るく豊かな未来の実現」に向けて役職員一丸となって取り組んでまいります。

経営方針

地域経済の発展

私たちは、地域金融機関としてお客さまの目線に立ち、ニーズや課題を的確にとらえ、共通価値の創造を図り、適切な金融サービスや情報を提供することで、地域企業の発展と、お客さまの豊かな生活の実現に貢献します。

社会の繁栄

私たちは、持続可能な社会の繁栄に貢献するとともに、社会的、文化的活動や、環境に配慮した取り組みへ積極的に行動します。

健全な経営

私たちは、お客さま本位の業務運営、ガバナンスの強化、安定かつ適正な収益の確保、経営情報等の開示により経営の健全性と透明性の確保を図ります。

明るく豊かな未来の実現

私たちは、信用金庫人として、誇りと信念を持ち自己研鑽に励み、働きがいのある職場環境の整備と福利向上に努め、地域のお客さまとともに、豊かな自然、風土、社会、産業、文化を未来へ繋げ、明るく豊かな未来の実現に取り組めます。

中期経営計画 2021▶2024 骨子

『支援力の強化と変革への挑戦』 ～課題解決による地域経済の 力強い回復を目指して～

目指すべき姿

はくさん信用金庫は、お客さまとのリレーションシップを追求し、地域に根ざしたコミュニティバンクとして、会員、お客さま、そして地域が抱える課題の解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の成長に貢献する。

経営上の課題と対応の方向性

【最重要課題】

- 安定した収益と将来にわたる健全性の確保、十分かつ継続的な金融仲介機能の発揮
- コロナ禍の影響拡大：『金融円滑化』に向けた積極的対応
 - 資金繰り支援
 - 本業支援・経営改善支援
 - 事業承継・再生支援・廃業支援
 - 個人と地域社会の課題解決支援

【重要施策・業務変革への取組み】

- 店舗戦略（統廃合）・店舗運営
- 渉外活動の変革（渉外支援システムの導入）
- 投資信託業務への取組み（全店展開）
- デジタル技術の活用（ペーパーレス化の推進）
- コンサルティング室・債権管理室の設置
- 厳しい収益環境への対応
- 本店：耐震改修工事の実施

2021 Report

経営情報の開示

ディスクロージャー

DISCLOSURE

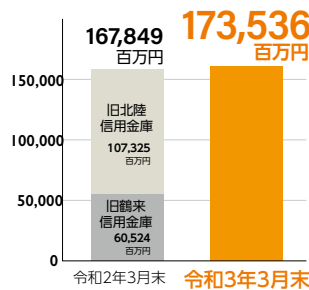
※本資料に掲載の計数は原則として単位未満を切り捨てしています。
※預金・貸出金の推移の令和2年3月末の計数は、旧北陸信用金庫と旧鶴来信用金庫の残高を合算し、記載しております。

貸出金の推移はどうか？



令和3年3月末の貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているお客さまへの積極的な資金繰り支援により、事業性貸出を中心に順調に増加し、令和2年3月末比3.38%増の1,735億36百万円となりました。

貸出金



新型コロナウイルス感染症関連融資の実行状況

実行件数	1,311件
実行金額	17,419百万円

(令和3年5月末現在)

有価証券の運用状況はどうか？

有価証券の時価状況

●満期保有目的の債券

単位：百万円

区 分	種 類	令和3年3月末		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	1,480	1,634	154
	社債	2,337	2,632	295
	その他	3,409	3,469	60
	小計	7,226	7,736	509
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	104	104	△0
	その他	1,200	1,187	△12
合計	小計	1,305	1,291	△13
	合計	8,532	9,028	495

注1. 時価は、期末日における市場価格等に基づいています。
注2. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。
注3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めていません。

●時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券

単位：百万円

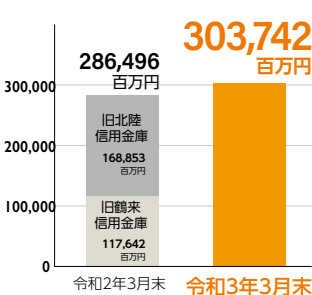
区 分	令和3年3月末
その他有価証券 非上場株式等	54

預金の推移はどうか？



令和3年3月末の預金残高は、要払性、定期性預金ともに順調に増加し、令和2年3月末比6.01%増の3,037億42百万円となりました。

預金



収益の状況はどうか？



令和3年3月末の収益は、本業の収益力を示すコア業務純益（投資信託解約損益除く）は2億80百万円、経常利益は2億50百万円、当期純利益は1億92百万円となりました。

単位：百万円

	令和3年3月末
業務純益	220
コア業務純益（投資信託解約損益除く）	280
経常利益	250
当期純利益	192



有価証券の運用につきましては、安全性・収益性・流動性の確保を最優先に、分散投資に努めています。令和3年3月末の時価のある有価証券の状況は下表のとおりです。

●その他有価証券

単位：百万円

区 分	種 類	令和3年3月末		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	19	17	2
	債券	9,171	8,994	176
	国債	—	—	—
	地方債	2,420	2,358	61
	社債	6,751	6,636	115
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	その他	808	795	12
	小計	9,999	9,807	192
	株式	18	22	△4
	債券	9,755	9,893	△137
合計	国債	2,925	2,986	△60
	地方債	1,550	1,578	△28
	社債	5,279	5,328	△48
合計	その他	7,897	8,360	△462
	小計	17,671	18,276	△604
合計	合計	27,671	28,083	△411

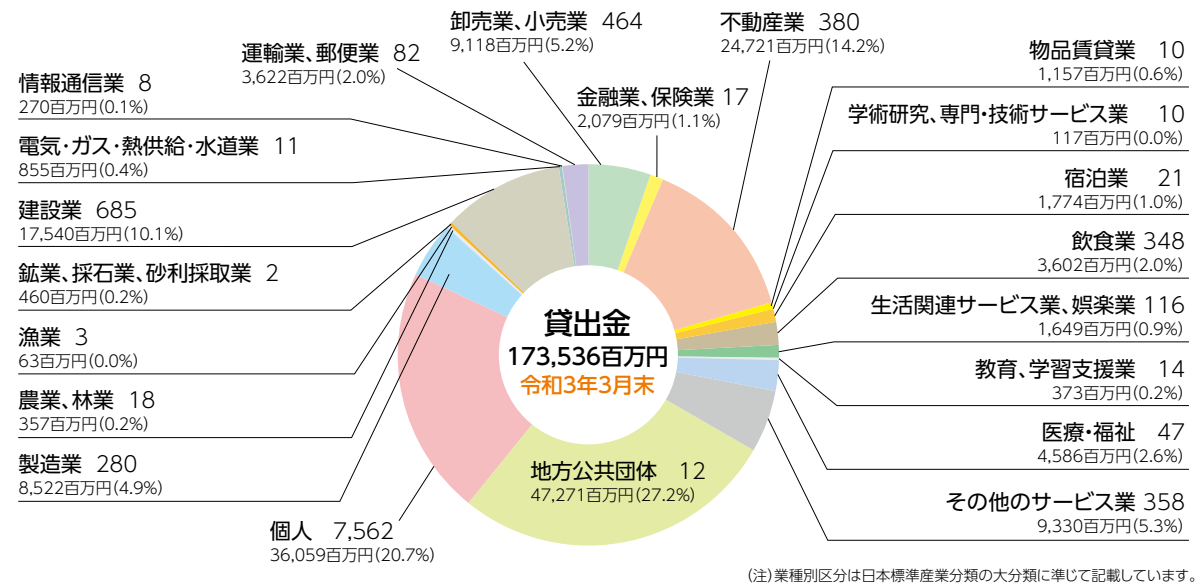
注1. 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいています。
注2. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。
注3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めていません。

Q 業種別の貸出金の状況はどうか？

A 令和3年3月末の業種別貸出金の状況は下表のとおりです。これからも地域のお客さまのニーズにしっかりと応えできるよう努めてまいります。

業種別貸出金残高状況

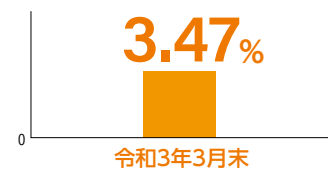
表の見方 業種別区分 貸出先数
期末残高/百万円（構成比率/%）



Q 不良債権の状況はどうか？

A 令和3年3月末の金融再生法ベースの不良債権額は61億33百万円、不良債権比率は、3.47%となりました。当金庫では、資産の健全性を確保するため厳格な自己査定を実施し、適正な不良債権処理を行っています。

不良債権比率



金融再生法開示債権とその保全状況

単位：百万円

区 分	令和3年3月末
金融再生法上の不良債権 (A)	6,133
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,158
危険債権	2,192
要管理債権	782
正常債権	170,411
保全額 (B)	5,335
貸倒引当金 (C)	3,688
担保・保証等 (D)	1,646
保全率 (B)/(A)%	86.98
担保・保証等控除後債権に対する引当率 (C)/(A-D)%	82.21

○上記の貸倒引当金は個別貸倒引当金及び要管理債権に対して計上している一般貸倒引当金の合計額です。

Q 安全性はどうか？

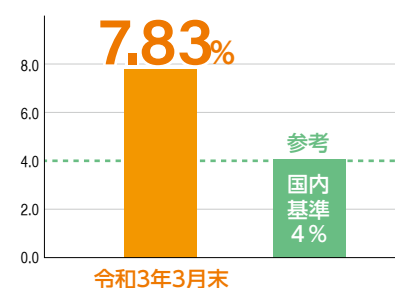
A 令和3年3月末の自己資本比率は7.83%となりました。信用金庫に適用される国内基準4.00%を大幅に上回っており、高い健全性を確保しています。

自己資本比率の算出方法

$$\frac{\text{自己資本額}}{\text{リスク・アセット等}} \times 100 = \text{自己資本比率 (7.83\%)}$$

自己資本額 82億24百万円
リスク・アセット等 1,049億13百万円

自己資本比率



TOP INTERVIEW

トップインタビュー

はくさん信用金庫
理事長

石田 雅裕
Masahiro Ishida

インタビューアー
フリーアナウンサー

上坂 典子
Noriko Uesaka

小松市生まれ。大学卒業後、北陸放送(株)にアナウンサーとして入社。ニュースキャスターなどで活躍後、1998年に退社しフリーランスに。現在は石川県内のラジオを中心に活動。

はくさん信用金庫
副理事長

玉井 重治
Shigeharu Tamai

お客さまと共に歩み始めて1年 さらに身近な金融機関として、地域経済の支えに

合併から1年を振り返って

上坂 はくさん信用金庫誕生から今年の9月に1年を迎えられるそうで、おめでとうございます。

石田 ありがとうございます。あっという間の1年でした。

上坂 私は、「はくさん」という響きとひらがなの表記、そしてシンボルマークのオレンジ色に、やさしくて大きくてあたたかい印象を受けました。いつも見上げる白山のイメージそのものです。

石田 新しい金庫の名称について、実はお客さまからも「白山がいいのでは」という声をたくさんいただいていた。鶴来信用金庫は白山市を拠点にしていたし、北陸信用金庫も旧松任、現在の白山市で創業していますから、お互い白山の恩恵を受けて仕事をしているという意味でもびったりだと思い決めました。

上坂 2016年に山の日が制定された時、ラジオ中継のために初めて白山に登りました。想像以上に厳しかったですが、一度登るとそれまで“故郷の山”だったのが“私の山”と身近に感じるようになりました。北陸、鶴来の両信用金庫がお客さまに近い存在だったから、「名前を白山にしたら？」という声が寄せられたのでしょうね。

玉井 地元の山と同じように親しみを感じてくださっているのは、とてもうれしいことです。

想定外の事態。コロナ禍での船出

上坂 新しい組織として走り出して約1年。この間、特に印象的な出来事がありますか。

玉井 まさかのコロナですね。さまざまなことを想定して準備し合併しましたが、これだけは想像できませんでした。



一緒に考え、答えを出す 伴走型支援を粘り強くやっていく

上坂 コーポレートメッセージである「この街とともに、前を向く。上を向く。」という思いでいたくても、なかなか厳しい状況でしたね。

石田 本当に、厳しい状況でした。しかし、私たちが下を向くわけにはいきませんから、とにかくお客さまの資金繰り支援に全力を挙げました。諦めて廃業といったことにならないよう、とにかく事業を継続していただきたいという思いでした。

玉井 合併によって組織も変わりましたし、職員数も増えましたので、「何かできるはず、何ができるのか」と自分に問い続けた1年でした。合併は、これからを考えてのベターな道だと考えていましたが、今の状況を踏まえるとベストな選択だったと思います。



各地域で抱えている問題に対し、 どれだけ有益な情報を提供できるか

上坂 信用金庫の特徴でもある地域密着やお客さまとの距離の近さが、このコロナ禍においては壁になってしまったのではないですか。

石田 私たちの一番の強みである「フェース・トゥ・フェース」を考え直さなければならず、行動も制限されました。その中であっても、定期的訪問や連絡、私たちを応援してくださる親睦組織である「はくさん会」10団体を通してなんとか気持ちだけでも近くに感じていただけるように努めました。これまでは、勉強会やセミナーを通してお客さまと交流する機会もあったのですが、それも叶わず歯がゆい思い。1日でも早く感染が終息することを願うばかりです。

玉井 業種転換でマスク製造を始めた企業があり、その商品を急遽全国の信用金庫のネットワークを通じて販売したり、石川県の食をいろいろな方に紹介したりとできることはやってきました。このような販路支援は今後も継続していきます。

上坂 コロナ禍ではくさん信用金庫へ寄せられる相談の内容も変わりましたか。

玉井 事業転換のご相談が増えました。いち早く助成金の情報を提供するなど融資以外の面で資金的な支えになることも私たちにとっては大事な役目だと改めて感じています。

上坂 企業の課題を明らかにし、解決を支援するコンサルティング業務の必要性もより高まっているそうですね。

石田 これまでも増して丁寧に各企業の課題に最適な対応をしていきたいです。私たちもまだ専門的な知識が不足している部分がありますが、事業主の皆さまの悩みをしっかりと聞き、一緒に考え、答えを出す伴走型支援を粘り強くやっていきたいと思っています。

玉井 合併前は少子高齢化による事業主の減少で、事業承継についてのニーズが高かった。今は、それに加えて新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、コンサルティング業務の重要性が一層高まっています。難しいこともたくさんありますが、関連団体などと連携しながら要望に応じていきたい。幸い、合併当初からコンサルティング業務を拡大するための組織改革を行っていますので、さらなる強化が可能だと考えています。



非常事態の中で変わったもの、 変えないもの

上坂 私自身、この1年を振り返ってみると、まずものを捨てました。ものを捨てたことで、本当に必要なものや人について真剣に考えました。そう思うとコロナ禍は悪いことばかりではなかったなと。

石田 そうですね。私も、家族そして職員の大切さを改めて感じました。家庭も企業も人あってこそ。互いが互いの身体を気遣う思いやりの心を持ったことで、絆がより強くなった気がします。合併したばかりの私たちにとって、職員の力はとても重要。一人でも欠けることは考えられません。

玉井 おかげさまで決算も終わり、預金残高約6%増、貸出金残高約3.4%増という業績を残すことができました。これも結束力のなせる技だと感じます。

上坂 地域活性化に尽力しボランティア活動も積極的にされているとお聞きしておりますが、これも早く当たり前にできるようになるといいですね。

石田 信用金庫にとって、地域の活性化に尽力することは当たり前のこと。これまでと手法は変わっても、都市銀行や地方銀行にはない小まわりの良さ、地域密着の体制を活かしてこれからも地域を元気にするお手伝いをするには変わりません。そうでないと私たちが存在する意義がありませんから。

玉井 中長期計画において地域との連携強化を一つの柱に掲げています。各地域で抱えている問題に対し、どれだけ私たちが有益な情報を提供できるか、持続可能なビジネスモデルを構築できるかが課題。当然、コロナをはじめとする感染症への対応も入ってくるでしょう。

より良い方向へ、共に進んでいく

上坂 コロナ禍になって改めて信用金庫の使命や存在意義を考えられているのですね。理事長、副理事長という立場になった今、どのような時にこの仕事に就いてよかったなと感じますか。

石田 お客さまが喜んでいる姿を見るのが一番うれしいです。辛いこともたくさんありますが、お客さまの「ありがとう」の言葉と笑顔が一番。

玉井 私も同じですね。入庫してからずっと変わりません。

上坂 理事長、副理事長になって遠い人になったわけではないのですね。

玉井 私たちも、じっと椅子に座っていたのではダメ。理事長も私も時間が許す限りお客さまを訪問したり、営業店



応援に出たりして動いています。さらに今はコロナ禍という非常事態ですから、お客さまはもちろん職員のためにも、いいと思ったら思い切って決断していくことが職務だと認識しています。

石田 はくさん信用金庫は私と玉井さんのツートップだと思っています。カバーし合いながら、臨機応変に協力する。適材適所ですね。これからも互いの良いところを取り入れながら、はくさん信用金庫をつくりあげていきたいと思っています。

玉井 今までと同じ仕事でも合併後は流れが違うこともあります。大変なこともあります。白山のご来光のように地域に光を届けるイメージを持って仕事に取り組んでいきたいですね。



上坂 最後に今、お客さまに伝えたいことは？

石田 必ず元の経済、暮らしに戻ると信じて地域を元気にするお手伝いをしたい。そのためにも今はお客さまとたくさん話をしたいです。希望を持って前に進もうと思うきっかけになれば、こんなにうれしいことはありません。

玉井 どんなことでも気軽に相談してくださいという一言に尽きます。お手伝いできることは、スピード感をもって対応します。

上坂 2金庫それぞれの歴史や培ってきたお客さまとのつながりを守りながら、時代のニーズに応え地域活性化の架け橋になろうという決意が伝わりました。これからも、白山のように身近な金融機関として、私たちの街や暮らしを支えていただけたらと思います。本日はありがとうございました。

本店ビルの 耐震改修工事について

当金庫の本店ビルは、昭和46年6月に旧北陸信用金庫の本店として新築上棟されて以降、約51年に渡りお客さまに親しまれてきました。平成7年の阪神・淡路大震災以降、新潟県中越地震、能登半島地震、東日本大震災など日本各地で大地震が発生し、多くの建築物が倒壊したほか、被害は深刻なものでありました。

このため、本店ビルがある金沢市でも、地震による被害軽減のための、建築物等の耐震化など安全対策が重要課題となっており、平成20年6月に策定された「金沢市耐震改修促進計画」が平成28年3月に見直されました。それを契機に今年度本店ビルの耐震改修工事を実施することとなりました。ここでは、本店ビルの改修工事の概要をお伝えします。

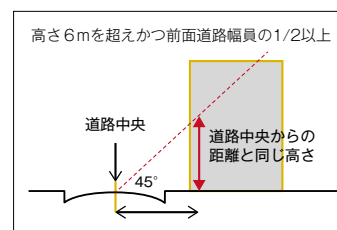
本店ビルの状況

本店ビルが面している「金石街道」は、沿道の建築物の倒壊によって緊急車両の通行や住民の避難の妨げにならないよう地震防災対策特別措置法の規定に基づき定められた緊急輸送道路のうち、第1次緊急輸送道路として指定されており、倒壊した場合において、前面道路の過半を閉塞する恐れのある建築物（高さ6mを超える）として耐震改修促進法に規定する通行障害建築物となっています。

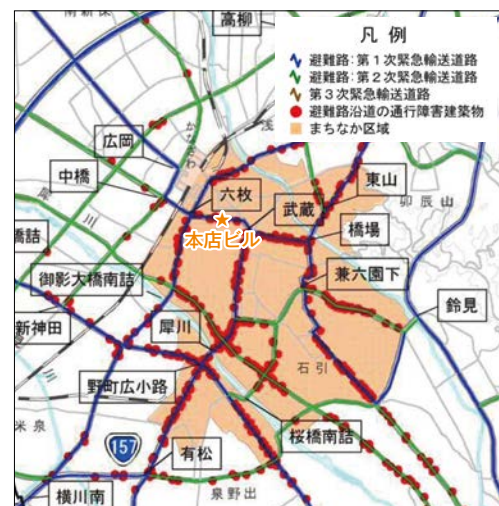
また、本店ビルは、昭和56年6月1日に施行された新耐震基準以前の旧耐震基準による建物であり、新耐震基準を満たすための耐震改修等を行う必要がありました。

そのような環境下で、今回の改修工事を実施することとなりました。

通行障害建築物とは？



金沢市内緊急輸送道路図



本店ビルの耐震改修工事の 工法について

本店ビルの耐震改修工事は、ビルの外観は基本的に変えず、内部の構造の強化により耐震性を向上させる「フレーム工法」という手法を採用しています。また、さらに3つの工法を適材適所に採用して工事を行います。

お客さまにはご不便・ご迷惑をお掛けしますが、皆さまをこれまで以上に安心・安全にお出迎えできるよう、今年度中を目途に工事を進めてまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

はくさん信用金庫本店 耐震補強工事／工法一覧表

① RC壁増設	② 枠付鉄骨ブレース	③ 開放型耐震補強 (SMIC工法)
既存の壁は撤去し、鉄筋コンクリートの耐震壁を増設する工法。	枠付鉄骨ブレースをフレーム内に取付ける工法。	鉄骨と繊維補強コンクリートで構成される「SMIC部材」をフレーム内に取り付ける工法。

CROSS TALK

はくさん信用金庫



合併、コロナ禍 激動の1年を振り返って

はくさん信用金庫が誕生して1年。コロナウイルス感染症の影響などで生活スタイルや価値観が一変する中、日々奮闘する若手職員が考える、現在そして未来。

戸惑いもあった合併。 現在の心境は

合併から1年が経ちます。率直な感想を聞かせてください。

安田 最初は戸惑いました。私が担当している窓口では、諸届けの書式などが一新されこれまでしてきた仕事でも細心の注意が必要でした。

北村 分かります。不備があればお客さまに迷惑をおかけしてしまいますからね。私も何をするにも毎回確認していました。

形浦 今まで感覚でできたことも、一端立ち止まって考えなければいけなくなったのは確かですね。

北 まったく違う二つの組織が一つになったのですから、仕事の進め方はもちろん、精神的な“壁”のようなものは、皆さん多少は感じていたのではないのでしょうか。昨日まで違う会社だったのに今日から仲間になりましたと言われても正直、戸惑いますよね。

北村 そうですね。ただ考え方次第だなとも思いました。実力のある職員ばかりなので、組織としての知識量や専門性がレベルアップしたことは実感としてあり、いい刺激ももらっています。

土井 商品が増え、提案の幅が広がりましたね。この強みをいかすためにも、お客さま一人ひとりにベストな商品を提案できるよう各商品について深い知識を身に付けなくてはと思っています。
高野 合併によってこれまで店舗がなかった営業エリアにも拠点ができたことは、今後の営業活動を考えてもとても良いことなので、かつての所属にこだわらず、このスケール感をいかす取り組みを考えていくべきですね。

必要とされる よろこびを胸に

コロナ禍において、業務の内容や方法は変わりましたか？

安田 窓口業務に変化はありませんが、

毎日お会いするお客さまも多いので、ご来店いただきたい気持ちと何かあってはいけないという心配が日々入り交じっていました。

形浦 テレワークが増えた影響もあり、普段なかなか店舗に来ることができないお客さまが諸届けやご相談のために来店されることが増えました。コロナ禍の広がり不安が尽きない状況でしたが、久しぶりにお会いできて少し気持ちが晴れました。

北村 自粛期間中、家の掃除をされた方が多かったようで、私も初めて見るような通帳を持ってこられる方がたくさんいらっしゃいました。睡眠口座の解消につながるのありがたいかったですし、お客さまとゆっくりお話しできたこともコロナ禍で辛いことが多い中、良かったと思えることでした。

高野 今まででは気兼ねなくお客さまを訪問できましたが、コロナ禍で距離感がとても難しくなりました。電話でもやりとりはできますが、お客さまの気

耐震改修工事に伴う

「本店営業部」

移転のご案内

当金庫「本店営業部」は、本店耐震改修工事のため、令和3年4月19日(月)より「はくさん信用金庫：金沢支店内」にて仮店舗として営業させていただくこととなりました。なお、工事期間中「本店営業部」のATMコーナーはご利用いただけます。

仮店舗

金沢市三社町3-15 はくさん信用金庫金沢支店内 TEL.076-233-1181



持ちが分かりにくい面も。また、単純に「お金を貸す」、「返す」といったことではなく、情報を求められているのも強く感じました。補助金の情報、同業他社の方が何に取り組んでどういう状況なのかなど、お客さまの不安を少しでも払拭できればいつもにも増して情報収集や提供に時間を使いました。

土井 手洗いうがいといった感染対策の徹底。その上で、補助金や助成金の紹介、時には商工会や市の担当部署といった専門機関に取り次ぐなど例え取引につながらなくても、お客さまのサポートに徹しました。

北 距離と言えば、職員同士の距離感も難しかったと思います。私はお酒が好きで、人と仲良くなろうと思うと「じゃあ飲みに行くか」となるのですが、合併時がコロナウイルス蔓延の真っ只中でそういったコミュニケーションができず、なかなか打ち解けた話ができませんでした。1年たった今は解消されましたが、合併後のスムーズな人事交流にもコロナ禍が妨げになったような気がしています。

形浦 「コロナで集金に行けません」とお伝えしたところ、「わしが行くわ」と言ってくれる方も。「はくさん信用金庫はお客さまにとって不要不急では



ないのだな。必要なのだな」とうれしく思いました。

北村 ちょっとした世間話から、「売り上げが減ってきている。どうしよう」と相談を受け、融資担当につないだこともありました。この時感じた、「資金繰りを支える」ということの重要さが、融資担当となった今、仕事でもいかされています。

安田 何度か、新型コロナウイルス感染症特別融資の手続きに同席しました。よく窓口に来られるお客さまが多かったため、経営状況の深刻さを知ったときは愕然としましたし、融資の目処がたった時はほっとしました。



コロナ禍がもたらした自覚と責任

コロナ禍で仕事への意識に変化はありましたか？

北 融資の依頼が激増する中、自分の中でスピード感を重要視していました。お客さまも資金繰りでお金を借りるのですから早いにこしたことはありませんから。

形浦 去年の3～4月、新型コロナウイルス感染症の第一波が全国的に広がりはじめた頃、飲食業のお客さまから資金繰りの相談を受けました。当時は石川県の特別融資が発表されたものの、具体的な制度が固まる前。しかし、4月中に資金が必要ということで資料を読み込み、関係各所に問い合わせをなんとか資金を確保できました。そのお客さまは事業を継続されており、店の感染症対策、営業方法の変更などを経て、今は2号店も計画されています。

そんな話を聞くと、一助にはなれたのかなと感じます。

土井 石川県の特別融資に関しては、相談のほかどんな内容なのか、どんな状況条件で借りられるのかといった問い合わせも多かったです。取引先だけでなく、ニュースや新聞記事で見て気になってという方もいらっしゃいました。困ったときに頼られるのはやはりうれいです。

高野 石川県の特別融資は、最長3ヶ年無利息となる“無敵の制度”。このような制度がずっと続くことは考えにくいので、その先を見据え通常の融資についても提案していく必要があると考えています。

北村 そういう話を聞くと、コロナに関係なく、融資に関する勉強をもっとしなければと痛感します。お客さまにこの人なら大丈夫と思っていたるように、まずは知識を付けなければ。

高野 昨年9月に融資の相談を受け、12月に飲食店を開業したお客さまは、当初創業資金として融資の対応をしていましたが、オープンと同時に新型コロナウイルス感染症の影響で営業ができなくなり石川県のコロナ特別融資に切り替えました。上司にも相談し今後も頑張っで欲しいという気持ちで動きました。その店は今も頑張っで営業されています。

北 石川県の特別融資は大体のお客さまが3年間返済なしの設定。あと1年半～2年すると返済がスタートすれば、さらに状況が厳しくなる可能性があります。その辺りも担当としてしっかり見守っていかなければ。アフターコロナで最も



注意しなければいけないのもその点ではないでしょうか。

形浦 これからを乗り切れるお客さまになっていただくために、補助金など有益な情報はどんどん提供し、廃業してしまう企業をなくすという具体的な形につなげていけたらという思いです。

北 今も定期的なモニタリングはしていますが、傷口が大きくならないうちに気づいて治療することも重要。私たちは信用金庫なのでお客さまとの距離が近いぶん、積極的に動いていかなければ。本当に今からが大事だと思っています。



●今回の座談会メンバー



本店営業部 係長
高野 世蓮
平成26年入庫／渉外担当

鳴和支店
安田 文
平成30年入庫／窓口担当

野々市南支店 係長
土井 勇輝
平成25年入庫／融資担当

美川支店 副店長
北 則天
平成18年入庫／渉外担当

根上支店 主任
北村 香緒里
平成26年入庫／融資担当

小松中央支店 支店長代理
形浦 達也
平成18年入庫／渉外担当

積極的な声かけが目標です。

北 コロナ禍で信用金庫を選んでいただいている意味を深く考えるようになりました。私にできるのは、仕事でお客さまの役に立つことなので、何でも相談できるような信用金庫人でありたいと思っています。

高野 はくさん信用金庫全体が今後一層成長するために日々の仕事を頑張っでいきたいです。

北村 困った時にパツと顔が出てくる職員になりたいですね。この人なら大丈夫。相談してみようと心を開いてくれている証だと思うから。そうなれるためにも日々の業務を丁寧に積み重ねていきます。

形浦 合併してもこれまで通りのお付き合いを続けながら、これまで以上に信用できる、何でも相談できる信用金庫人でありたいです。

野々市市とボランティア支援 (アダプトプログラム) の調印



令和3年3月1日(月)、当金庫は、野々市市との間で、標記について合意し、野々市市役所において栗野々市市長と石田理事長・山口野々市支店長により合意書に調印しました。

能美市とはくさん信用金庫、(株)北國銀行及び あいおいニッセイ同和損害保険(株)との 相互連携協定締結式



令和3年4月30日(金)、能美市の移住及び定住の促進に向けて、相互の連携を強化し、まちづくりの一環としてそれぞれの有する機能を効果的に発揮することにより、多様な暮らしが実現できるまちづくりに寄与することを目的として締結されました。

第30回 記念セミナーの開催 プレミアム1000社の会 会員向けセミナー

令和3年3月3日(水)、顧客組織「プレミアム1000社の会」の活動の一環として継続開催しているセミナーがのべ30回を迎えたことを記念し、日本政策金融公庫との共催で『事業主と継ぎ手・買い手のための「継業セミナー」～コロナ後のバトンタッチを考える～』をテーマに記念セミナーを開催、オンラインでのご参加を含め多数のお客さまにご参加いただきました。



シトラスリボンプロジェクト参加



令和3年5月6日(木)、コロナ禍で生まれる差別や偏見をなくし、思いやりの輪を広げて明るい社会を目指す「シトラスリボンプロジェクト」に参加しました。県内の活動の輪がさらに広がることを願って令和3年5月6日より全役職員が「シトラスリボン」を着用しています。

寺井支店グランドオープン



令和3年5月10日(月)に、2月に仮オープンした寺井支店が、グランドオープンいたしました。グランドオープン記念し、記念定期預金やプレゼントキャンペーンを実施しお客さまをお迎えしました。

渉外支援システムの導入



ペーパーレス化の推進のほか、渉外担当者の業務の効率化により、きめ細かなお客さまサービスの提供と課題解決に向けた取り組みの定着を図る観点から、タブレット端末を用いた渉外支援システムを導入いたしました。

非接触型体温測定器の全店導入

当金庫では、お客さまの健康・安全を最優先に新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて取り組むなか、感染拡大の予防対策の一環として全店舗に非接触型体温測定器を導入いたしました。ご来店時には検温・消毒等、感染防止対策にご協力いただきますようお願いいたします。

